インタビューを終えて

さまざまな形で戦争を体験した12人の方々の
お話を聞いて、学生たちは何を感じ、考え、
そしてどのように戦争というものを受け止めたのでしょうか。
インタビューを終えて、16人の皆さんに感想を寄せてもらいました。

戦時中にもあった小さな幸せ

あきやま・ゆうか
秋山裕香 さん

私は戦争体験者の方にとって、その時の思い出はつらいばかりだと考えていました。しかし今回お二人は、笑いを交えながら話してくださる姿が印象的でした。戦火をくぐり抜けたその方々にとって、戦時中、そして戦後起こったこと全てが嫌な思い出なのではなく、その中で生活していたからこそ楽しかったことや、幸せもあったのだなと思いました。

戦争という混乱の中で、人々は小さな幸せや楽しみを見つけていたのだと知ると、「あんなにむごい戦争があったから人々もつらい思い出ばかりだろう」と安直に考えていた自分が恥ずかしくなりました。

しかしその一方で、悲しい思い出の方は聞いていて胸が痛くなるようなものばかりでした。生死を分けた瞬間に関する話もありました。ある行動をとらなかったらその方は生きていなかったという話です。その中には、周りの人に流されていたら死んでいた、というような状況もありました。もし私がその立場だったら周りの人に流されて死んでいたでしょう。自分の意志を持つことの大切さが分かりました。

最後になりましたが、今回のインタビューに関わってくださったすべての方に御礼申し上げます。貴重な経験となりました。ありがとうございました。

今の日本に生まれたことに感謝

あらき・ゆうじ
荒木裕二 さん

戦争体験者の話を直接聞いてまず思ったことは、当時の日本はおかしかったということでした。当時の日本は戦争を肯定していて、否定すると「非国民」といじめられ、捕まることもあったと聞き、今の日本ではありえないことが当時は起きていたのだと思いました。

今回戦争体験者に話を聞くことができたのは、今の日本が戦争を否定し、もう二度と繰り返さないと決めているからだと思います。私は今の日本に生まれたことに感謝し、戦争を否定している人の努力が無駄になることがないよう行動していかなければいけないと思いました。

戦争の歴史的背景をもっと学び、考えたい

さとう・たから
佐藤宝 さん

今回のインタビューを通して、戦争体験は一人ひとりの人生が違うように本当に一つとして同じものはない、ということを感じました。学校の平和学習では平和の大切さを知ってもらうために戦争の悲惨な部分が多く語られますが、当時の日本では戦争をすることが当たり前で、多くの日本人はさまざまな苦労をいとわず国民一丸となって戦わなければならないと考えていたことを初めて伺い、知ることができました。

戦後70年が経ち、日本は当たり前のように平和な社会を実現しました。しかし今の平和を更に100年、200年先まで守り続け、二度と戦争をしないためには、平和の大切さのみならず、その昔、国民全体で戦争に突き進んでいってしまった歴史的背景などについても、もっと学び、深く考えなければならないと強く感じました。

私たちが伝えていかなければいけないこと

ちほぎ・らん
千保木蘭 さん

戦争体験をした方々の話を聞いて、現代は戦争の犠牲者の上に成り立っている世界だなと真っ先に思いました。「戦時中の政府」が本来の形ではないと、政府も国民も学んだからこそ、現代の政府の形があるのだと思います。彼らは、国民のことを全く考えておらず、彼らの利益や見栄のために、国民を翻弄（ほんろう）していたことを学んだのです。

私がこう思ったのは、防空壕を各家庭で作っていたエピソードを聞いたからです。私にとってこのことはとても衝撃的でした。なぜなら、家庭の所得格差によって、防空壕の規模や性能に違いが生まれてしまうからです。政府はこの違いに対しても何もしなかったことから、国民の一人ひとりの命を軽視していたという印象を受けました。

政府間の争いに、国民が巻き込まれ、被害を受けて、支援もない状況が過去にあって、それは間違った形の社会であるということを、インタビューした私たちが伝えていかなければならないと思いました。

今も戦争という歴史は身の回りに埋もれている

ほしな・あきと
保科彰斗 さん

戦争体験者から話を伺う機会を通じて私は、戦争をより身近に感じることができました。

学校や本で学べる過去の歴史というのは、教科書上の文字の羅列（らレつ）を目で追い、ただ覚えるだけであり、戦争を実際に体験していない私には、それをあたかも体験したかのように想像するのは極めて困難でした。その上、過去に存在した価値観や文化観は、あまりにも理解しがたい点が多くありました。

しかし、体験者である佐々木さんと石川さんからは、授業で学ぶのとは全く異なり、具体的かつ率直にその当時のことについて話を聞くことができ、戦争について白紙だった私の頭の中に、知識だけではなくその時の背景を想像できる絵が描き出されました。

また、戦争の被害を受けた地域や佐々木さんが育った地域が私の家にとても近く、話の中で知っている名前がいくつかあがり、それらの場所が当時はどんな被害を受けていたのかを知りました。今まで自分は戦争にあまり縁がないと考えていましたが、実は今も身の回りにその歴史が埋もれていると考えたら、戦争というモノがとても身近に感じられるようになりました。

今回の聴き取りでは、より戦争を深く考えるための鍵を得ることができました。これを活かして、より体験者に近い形で戦争について学び、考えを深め、その後それらをどうこれからの社会に繋げていくかも同時に考えていきたいです。

インタビューを終えて

誰のための戦争か 誰のための平和か考えたい

やまざき・あかり
山﨑朱莉 さん

私は二人の戦争体験者の方へのインタビューを通して、私たちが抱える平和への責任を強く感じました。お二方とも男性だったのですが、小さい時から軍隊に対して憧れを抱いていたと言います。誰のための戦争なのか。当時の国民なら全員がお国のためだと表面では言うでしょう。でも、私は話している時に見せた浜野さんの表情が忘れられません。浜野さん自身は戦争で戦ったことはないそうですが、時々何かを思い出しては涙が出るのをこらえていました。終戦から70年経った今でも、戦争のせいで涙を流す人がいます。戦争は勝ち負けなど関係なしに、死人が沢山出ます。死人が沢山出るということは、殺人者も沢山いるということです。人を殺して何のためになるのでしょうか。私は当時を生き延びた人に直接話を聞くことで改めてこの気持ちが湧き上がりました。

現在の平和はこれからの未来の平和を意味します。誰のための平和か。一人ひとりが考えられる社会にしていきたいです。

戦争体験者の方々の話を聴き、当時の様子や暮らしなど教科書では学ぶことのできない現実を知り、戦争の悲惨さがすごく伝わってきて、今の自分がいかに幸せかを感じました。戦争、核兵器は自分の大切なものを何もかも奪っていき、生きるということが苦になってくるのだと思いました。今は不自由なくおいしいものを食べることができますが、当時はそれも難しく、食事をするのも精一杯であったということを伺い、自分は感謝の気持ちをもちながら生活していくべきだと実感しました。

また、戦争のもたらす残酷さを知り、それと同時に平和の尊さを学ぶことができ、今の平和が続くにはどうするべきかと考えさせられました。ここで学んだことをいろんな方に伝えていけるように、自分ができることをしていきたいです。

教科書では学べない現実を知った

わらがい・ゆい
藁谷 結 さん

人それぞれ違う戦争体験、得たもの、失ったもの

あだち・まゆこ
足立真優子 さん

戦後70年を迎え、戦争体験者と呼ばれる方々が少なくなってきた今、次の時代を生きる私たちが戦争という過去の事実に対し何ができるのかを考えた時、今回このような機会を通して直接戦争体験者の方の話が聴けたことは、とても貴重な経験でした。私自身、高校時代に港区平和青年団の一員として活動させていただく機会があり、戦争に関してはその活動を通して人並み以上に学んだつもりでした。しかし、ただ一口に戦争体験と言っても、どこで、どのように、どんな立場で戦争を体験したかによって、感じたもの、得たもの、失ったものは違い、戦争に対して、人それぞれに異なる価値観、考え方がありました。

私たちは過去に戻り戦争を体験することはできません。しかし話をよく聴き、伝えていくことはできます。今回、このような機会を与えていただけたことに感謝しつつ、この経験を無駄にしないように、今後もさまざまなアプローチで活動していきたいと思います。

現実は想像をはるかに上回る苦痛と悲劇だった

いけがみ・さえ
池上沙衣 さん

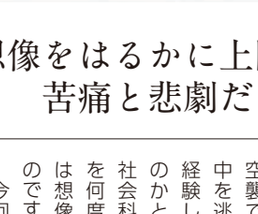
戦争、と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。私の場合、第二次世界大戦の東京大空襲で防災頭巾をかぶった人々が火の海の中を逃げ惑う一場面です。なぜ見たことも経験したこともないこの情景を想像できるのかといえば、それは小・中学校の道徳や社会科の授業でそのシーンを含んだアニメを何度も見てきたからです。しかし、現実は想像をはるかに上回る苦痛と悲劇だったのです。

今回の戦争体験者の方々の話から、戦争でつらい思いをした日本人は国内だけではないことを知りました。戦時中朝鮮半島へ渡り、そこで暮らしていた日本人は戦況が悪化すると命からがらソ連軍の手から逃れようとしました。食べ物も十分にありませんでした。一方、日本で軍事訓練や軍需工場の仕事に専念していた人々にとっても飢えは深刻な問題でした。

そんな戦争から70年経った今、私たちに語り継がれた戦争体験。この冊子には体験者たちの「二度と戦争を起こして同じ思いをしてくれるな」という次世代の私たちへの強いメッセージが込められています。

戦争体験者の強い思いを大切にしたい

いん・しゅんかく
任 俊赫 さん



「戦争体験者へのインタビュー」に臨むことになった時は、非常に緊張しました。平和な21世紀しか知らない僕らが、どこまで相手に寄り添って話を聞くことができるか不安だったからです。インタビューの講座や事前の資料で学ぶのと、ご本人と対面するのとでは、違う気がしましたが、今回のインタビューではその違いが良い方に働いたように思えました。

インタビューは不慣れな私たちでしたが、どの方に対しても、疑問に思ったことやより詳しく伺いたいことを聞くだけで、インタビュアーとしての役割を全うすることができました。ではなぜ私たちにとってこんなにも容易だったのでしょうか。それは、戦争体験者の方々に、私たち若者に直接「伝えたい、残したい」という強い思いがあったからではないかと思います。話す内容は各々で全く違いましたが、体験者の方々の思いはみんな同じでした。その強い思いの詰まった話を、戦争体験かどうかは抜きにしても、大切にしたいと思いました。

戦争に対する恐怖と悲しみを生々しく感じた

ささき・りょう
佐々木 嶺 さん

今回、私はお二人の戦争体験者の話を聞く機会がありました。一人は実際に戦争に行き、戦地で戦った方。もう一人は、戦争中に学生時代を過ごされた方です。このお二人から聞いた話は生々しく、戦争に対して恐怖と悲しみを感じるのに十分すぎる内容でした。

それらの話を実際に聞いてみて、私は感じたことがあります。それは、戦争体験者の方々は想像以上に、戦争体験に対して悲観的な記憶は持っておらず、恐怖を感じていない、むしろ戦争体験に対して誇りを持っているのではないか、ということです。私は実際に戦争を体験したことがありません。つまり、戦争に関して私が持っているイメージは想像上のものでしかありません。私の持つ戦争体験者に対するイメージは、「つらい体験をした方々」というものでした。しかし今回のインタビュー体験によって、自分の考えは相手を敬っているのではなく、むしろ失礼な考えだったのかも知れない、ということに気付くことができました。

平和に慣れている今だからこそ、できること

しらつか・みか
白塚美歌 さん

私は今回、初めて戦争体験者からの聴き取りをしました。母の出身地である長崎に祖父母が住んでいるということもあり、幼い頃から戦争、特に原爆のことは知っていましたし、原爆資料館などでどんなに悲惨なものだったのかも見てきました。

「戦争は二度と起こってはならないこと」「つらく、悲惨なこと」。聴き取りの前の私の、戦争に対する思いはこのようなとても漠然としたものでした。しかし、実際に聴き取りをしてみると、決してつらい経験をした人だけでなく、一人ひとり全く違う経験をしていることがわかりました。

聴き取りを終えて思うことは、今平和に暮らせる私たちは本当に幸せだということです。平和慣れしてしまっている今だからこそ、このような機会を頂いた私たち大学生が周りに発信すること、次の世代に伝えていくことなど、できることをやっていこうと思いました。

身近な出来事のように感じられた

たかはし・まりな
髙橋麻里奈 さん

今回、インタビューをさせていただいて一番に思うことは、やはり戦争に対する考え方が変わった、ということでした。

学校の授業などで習う戦争は、私にとって歴史の一部でした。それが私の人生に何かしらの影響を与えるとも思っていませんでした。教訓として戦争はいけないものだ、怖いものだといったイメージでしか捉えていなかったと思います。

インタビューをやってみて、実際に戦争を体験した方々に会い、教科書に載っている事柄を「自身の経験としてお話しされる姿」を見て、自分の中の戦争という遠いイメージとのギャップに戸惑いました。また、同時に、「本当にあったことなんだ」と、私の中で戦争というものが歴史上の出来事から日々ニュースでやっているような身近な出来事へと変わり、あまりの残酷さ、非情さに恐ろしさを覚えました。

この経験を通して強く感じたことは、戦争の事実を風化させていってはならないということでした。インタビューした方々も、風化してしまうことで繰り返される戦争が、最も恐ろしいとおっしゃっていました。戦争をただの昔のこととせずに、日々心の片隅でもよいから記憶として残しておくことが、今の私たちができる最も簡単で大切な、戦争を無くす努力なのではないかと思います。

戦争とは死の恐怖と隣り合わせの毎日だった

なかむら・みつたか
中村充孝 さん

私は大学の夏休みの期間に、浜野豊吉さんと岩垂広子さんのお二人に戦争体験について伺いました。インタビューを振り返ってまず思うことは、「戦争体験」と一口に言っても、それは一人ひとり全く異なる体験である、ということです。浜野さんは「軍人として」戦争を体験されたのに対し、岩垂さんは「母親として」戦争を体験されました。平成生まれの私には「戦争」と聞くと、国と国とが戦火を交えるといった抽象的なイメージが先に浮かんできてしまいますが、今回お二人の話を伺って、実際に当時を生き抜かれた方々にとっての「戦争」は、いつ自分が死ぬかわからない恐怖と隣り合わせの毎日で、明日をどう生きるかといった生身の人間の暮らしそのものだ、ということがわかりました。こうした具体的な戦争体験は、私たち若い世代がこれからいかに平和な社会を築いていくか考える際にその根幹となるものだと思います。

今回話を伺った経験を糧に、今後は、私が次の世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える活動をしていきたいです。

今も大切な、自分の意志と正しい情報の選択

すどう・やすお
須藤康夫 さん

私は今回のインタビューの中でも、体験者の方の「自分の意志で正しい情報を選び取った上で、時代やその場の環境に適合する必要があった」という一言が特に印象に残りました。戦時中から戦後へと、大きな変化と過酷な状況を経験された人の話を聞いた後だからこそ、よりいっそうこの言葉が重みをもって響きました。これは戦時中に限ったことではなく、めまぐるしく変化を続ける現代においても、同じことが言えるはずです。私自身、自分で考えて情報を取捨選択し、自分の意志で行動するということを、これまで以上に心がけたいと思いました。

平和のイメージを確固たるものにするために

ほりうち・ふみたか
堀内史誉 さん

私は普段生活をしていて、平和について深く考えたことはありませんでした。それは私が、不自由なく十分な生活を送れていたからです。

今回、戦争を体験した方の話を聞いて、今の世代の人と戦争への認識が違うように感じました。戦争反対という認識は共通ですが、平和に対する思いが私のように抽象的でふわふわしたものでなく、平和とはこのようなこと、という確固たるものがあるように感じました。それは戦時中に平和でない暮らしをしていて、もっと食べたい、遊びたい、オシャレしたいなど、平和への思いを描いていたからこそ、相違点が生じるのではと思います。

今回の聴き取りを後世に伝えていくことに対し、私たちは深く考える必要があります。これから伝えていく情報は二次情報になるため、体験者の方と私たちでは多少なりとも、温度差や話に矛盾が生まれるからです。私は聴き取りの際に感じた空気感を大切にし、後世に伝えられたらと思います。

インタビューを終えて

港区平和都市宣言30周年の記録

平成27(2015)年度の活動について

港区では、昭和60(1985)年8月15日、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願い、港区平和都市宣言を行いました。そして、宣言から30年の節目である平成27年度に、『幅広い世代の区民が「平和」を考えるきっかけをもち、世界の平和を願う心は一つであることを改めて認識すること』という理念を掲げ、さまざまな事業を実施しました。

30周年事業の主な内容

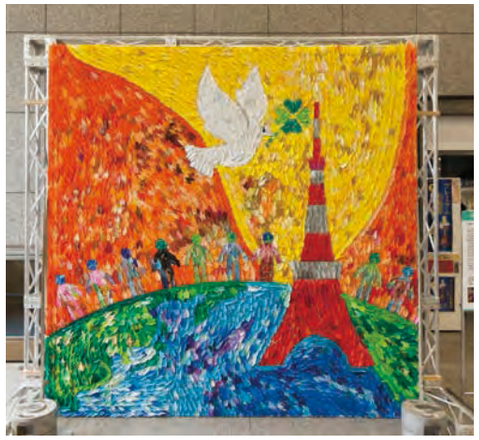
1 記念作品

みなと区民まつり・東京プリンスホテルエリア内「平和の広場」
平成27年10月10日・11日

港区役所1階ロビー
平成27年10月13日～23日

展示会場

折り鶴によるモザイクアート



制作:
区内の保育園・幼稚園児及び区民等

区内の保育園・幼稚園の園児が制作した折り鶴のほか、広く呼びかけて集まった折り鶴を、みなと区民まつりの来場者の協力のもと、モザイクアートを完成させました。

ペットボトルキャップの看板

制作:
区立小学校児童

ペットボトルキャップを使って、みなと区民まつり「平和の広場」のメイン看板、「港区平和都市宣言30周年 Declaration as a City of Peace since 1985 Minato City」を制作しました。

平和ポスター・作文

募集対象:
区内中学校生徒

平和ポスター・作文コンテストを開催し、応募作品全てをみなと区民まつりの会場に展示したほか、優秀作には賞状を授与しました。受賞者は次のとおりです。

平和ポスター

金賞

「この日常を　ずっと。」
松野 にこ さん（区立御成門中学校 2年）

銀賞

「永遠の願い」
神作 拳呉 さん（区立高松中学校 2年）

「PEACE～地球は一つ～」
真崎 大哉 さん（区立高陵中学校 3年）

「戦争を忘れない」
溝端 志歩 さん（区立高松中学校 2年）

銅賞

「未来のために平和を守ろう」
板橋 葵 さん（区立御成門中学校 1年）

「平和に関するポスター」
坂本 康太 さん（区立白金の丘中学校 7年）

「みんなえがおに　みんなしあわせに」
鈴木 健太 さん（区立高陵中学校 1年）

「全てが望む平和」
元嶋 仁奈 さん（区立六本木中学校 3年）

「幸せの種」
渡邉 こと乃 さん（区立御成門中学校 2年）

平和作文

金賞

「一秒の奇跡」

竹林 ことみ さん（区立高松中学校 3年）

一秒の奇跡

「あなたは、奇跡の子なのよ。」

それが母の口癖です。八人兄弟の末っ子として産まれた私は、両親と七人の兄姉から毎日、「可愛い、可愛い。」

という言葉のシャワーを浴びて育ちました。決して裕福ではありませんでしたが、愛情溢れる、幸せな家庭です。

しかし、私が六歳の頃、母から衝撃的な告白を受けました。

「あなたを産むかどうか、一秒だけ迷ってしまった。」

とのことでした。私は「たった一秒だけ?」と思いましたが、母は私を産んでからも、そのことをずっと後悔しているそうです。

当時、兄姉たちにはまだ学生が多かった為、経済的な余裕もなく、また母は、四十三歳というリスクの高い高齢出産でした。もしも、その一秒悩んだ答えが、今出ている答えではなかったら…。その時やっと、母の口癖の意味が分かりました。この世界に誕生したことが奇跡であり、これ以上にない幸せなことなのです。そう考えると、今の私の楽しい中学校生活は、奇跡の連続によって叶っているのだと気づかされました。

その奇跡の命を、世界中では「戦争」と称して奪いあっています。日本も七十年前までは、第二次世界大戦に参戦していました。果たしてそこで手に入れたものは、命の重みに勝っていたのでしょうか。

私の祖父は、当時二十歳で徴兵され、九州の山奥に配属されました。ある時、同期の一人が窓から身を乗りだして

「アメリカの飛行機が飛んでいるぞ!」

と言った途端、何発もの弾丸を浴びて即死しました。祖父は危機一髪のところで助かったものの、同期の突然の死に、相当なショックをうけたそうです。無事に帰ってきた祖父は、祖母と結婚し、私の母を授かりました。きっと、亡くなられた同期の方にも、受け継がれる命があったはずです。もし、あの時、撃たれていたのが祖父だったら、私は今ここに居ませんでした。生命とは、全てが繋がって出来ているのです。

たくさんの命を奪い合うことで、利益を得ている人がいます。上辺だけの利益で、心を満たすことは出来るのでしょうか。平和に繋がっているのでしょうか。一生、後悔の念が心を支配していては、生きる喜びはどこにも生まれ育ちません。私は、それなら、皆で手を取り合い、支えあうことで生まれる「生きる喜び」を利益に変えて生きたいです。

現在の日本は、日本国憲法第九条により戦争の放棄が構成されています。三大原則の一つである平和主義が規定されているだけで、私達はつい平和だと思ってしまうのです。しかし、戦争は放棄していても、心の争いは日々絶えません。受け入れ難い残酷なニュースも、止むことを知りません。何千、何万という尊い奇跡の命が、奪われているのです。

「世界平和」というと「自分とは違う次元での話だ。」と錯覚してしまいます。しかしそれは、紛れもなく地球上で起きていることであり、決して自分に関係無いことではありません。

平和な世界を創る為に、私達が出来ることは何なのでしょうか。私は、辛い過去や、厳しい現実から目を背けないことだと思います。そして、学校での役割をきちんと果たしたり、一日に一度は家族に笑顔を見せる等、些細なことが大切なのです。こうして、自分自身が「平和になること」が、世界平和への第一歩になると思います。

私は将来、世界各地を飛びまわって、多くの人々と対話をすることが夢です。そして、お互いの文化を伝え合い、認め合って、いつか戦争の無い世の中にしたいです。その為に、中学生である今から語学を勉強し、

「みんなは、奇跡の子なんだよ。」

と、母の口癖を受け継いでいこうと思います。そして、一つ一つの小さな平和を、繋ぎ合わせられるような存在になりたいです。

銅賞

「七十年の想いを繋いで」 **岡田 茉美子** さん（区立港南中学校 2年）

「平和のために私ができること」 **後藤 七海** さん（区立港南中学校 3年）

「手帳が語る真実」 **小原 里咲** さん（区立三田中学校 3年）

「平和と違いの見方」 **髙橋 舞夢** さん（区立港南中学校 3年）

「戦後70年、伝承の難しさ」 **村瀬 理桜** さん（区立三田中学校 2年）

銀賞

「平和な空」 **内田 菜々美** さん（区立港南中学校 3年）

「生きていてくれてありがとう」 **小鹿 美春** さん（区立高松中学校 3年）

「私の平和宣言」 **渡具知 涼央** さん（区立高松中学校 3年）

2 記念イベント

平成27年10月10日～12日

港区の芝公園一帯で開催された「みなと区民まつり」において、各種イベントを開催しました。
企画・運営は、区内の大学生9人によるイベント実行委員が中心となって行いました。

記念ステージイベント

みなと区民まつり「平和の広場」において、平和をテーマとした9つのステージプログラムを、イベント実行委員が企画・運営しました。実行委員とアフガニスタン・イスラム共和国大使館大使・外交官とのパネルディスカッションや、難民についての講演会、映画上映、コンサートなど幅広い内容のステージイベントを開催し、世界平和への願いを来場者に伝えました。

平和クイズスタンプラリー

来場者に平和について考えてもらうきっかけとするため、みなと区民まつり5エリア全てに1か所ずつ、平和にまつわるクイズを用意し、スタンプラリーを実施しました。

伝える・つなげるプロジェクト

みなと区民まつり来場者の思いを書き集めた「平和のタスキ」・「未来のタスキ」を、公募で選ばれた8人の参加者が、「ごみ拾いウォーク」としてみなと区民スポーツ・体育祭当日（10月12日）にごみを拾いながらスポーツセンター会場まで運びました。その後タスキは港区スポーツセンターで展示しました。このプロジェクトは、NPO法人との連携により実施しました。

イベント実行委員
主な活動内容

- 記念作品「折り鶴によるモザイクアート」のデザイン作成
- 記念イベントの企画・運営と事前研修
- 記念冊子・映像記録作成のための戦争体験者への聴き取り

3 記念冊子・映像記録

戦争体験者の体験談を、「インタビュー」「手記」の二つの形で掲載した記念冊子を作成しました。インタビューでは、港区平和青年団の高校生と、イベント実行委員の大学生がインタビュアーを務め、若者にも読みやすい内容に編集しました。また、戦争当時の基礎知識や港区の様子を学べるよう、資料写真を多く掲載した特集ページも収録しています。
さらに、インタビューの様子や、現在の若者の平和の思い等を収録した映像記録（ＤＶＤ）も併せて作成しました。

4 港区平和都市宣言30周年記念式典 ～平和を考える集い～

平成27年8月15日

記念式典及び港区平和青年団の活動報告会を開催しました。平和の灯に分火いただいた広島市・福岡県八女市・長崎市の各市長からのメッセージ紹介や、広島で被爆したピアノのミニコンサート、来場者全員での合唱など、平和を考えていただくきっかけとしてさまざまなプログラムを行いました。

5 非核平和イベント

平成28年1月29日

日本非核宣言自治体協議会と共催で、朗読劇等を実施しました。

6 横断幕・懸垂幕の掲示

通年

区役所や各地区総合支所に懸垂幕・横断幕「港区平和都市宣言30周年 心から平和の願いをこめて」を掲示しました。

毎年実施している各種平和事業

憲法週間記念講演と映画のつどい
（平成27年5月14日）

戦場カメラマンの渡部陽一氏を講師に招いた講演会と、映画に代えてミニパネル展（平成27年5月8日～14日）を実施しました。

平和展（平成27年8月1日～16日）

平和の尊さを訴えるため、区役所1階ロビー等区内5会場にて平和展を開催しました。明治から今日までの戦争を中心とした年表や、戦時中の食事の食品サンプル、国民服の複製品などのほか、区民の方から寄贈いただいた寄せ書きのある日章旗等、多数の実物資料を展示し、内容を拡大して開催しました。

巡回平和メッセージ展
（平成27年10月～12月）

著名人による平和メッセージパネルを小学校に展示し、子どもたちに、平和の大切さを改めて考える機会を提供しました。

ミニ平和展セットの貸出し

戦時中の暮らしを再現した「衣・食・住」の啓発物品セットを用意し町会・自治会や地域など、子どもたちが集う場所での語り継ぎや平和の尊さを考える会などの催しで活用いただくため貸出しを行っています。

平和青年団事業

次代を担う高校生世代を対象に、長崎への派遣研修を中心とした平和に関する研修を通して、平和を築く意識を醸成しています。平成27年度は、港区平和都市宣言30周年記念式典及び記念イベントへの参加や、記念冊子作成に伴う戦争体験談聴き取りのインタビュアーを務めるなど、さまざまな取組をしました。

その他の取組

各図書館で実施する特設展示「平和を考えるコーナー」や港郷土資料館コーナー展「終戦70年―港区の戦中・戦後―」などを、「港区平和都市宣言30周年事業」の一環として実施しました。

あ

愛国婦人会……あいこくふじんかい　明治（1901）年に発足した、戦死者遺族や傷痍軍人に対する慰恤活動を行う団体。昭和17（1942）年、大日本国防婦人会、大日本連合婦人会と統合して「大日本婦人会」になった。P.44

赤紙……あかがみ　「召集令状」を参照。P.21

慰問袋……いもんぶくろ　出征兵士を慰めるため、地域の婦人会や学校単位で中に日用品や菓子、娯楽品、励ましの手紙などを入れて送った。P.33

MP（Military Police）　米軍の警察、憲兵のこと。P.135「コラム20 憲兵隊」

か

外地……がいち　終戦までの、本土以外の日本の領土を指す。朝鮮半島や台湾、樺太（サハリン）南部、関東州（遼東半島南部）、南洋群島（ミクロネシア）などが含まれる。

学童疎開……がくどうそかい　戦争末期、都市の国民学校の生徒を空襲の危険から避けるために強制的に農村部へ移動させたこと。東京からは約20万人が疎開した。しかし疎開先の食糧事情は悪く、栄養失調やシラミに悩まされた。親戚などを頼った縁故疎開と学校ぐるみの集団疎開とがある。P.37、P.40、P.155「コラム21 疎開」

学徒出陣……がくとしゅつじん　昭和18（1943）年12月、戦局の悪化により、大学・高等学校・専門学校の学生・生徒（学徒）の徴兵猶予が停止され、主に文科系の学徒が軍隊に入隊したこと（理工系などは入隊が延期された）。「神風特攻隊」員として命を落とした学生も多かった。P.24、P.103「コラム12 徴兵猶予と学徒出陣」

学徒動員……がくとどういん　学生、生徒を対象に行われた勤労動員のこと。日中戦争以降徐々に拡大され、戦争末期には、授業が停止されてもっぱら軍需工場などへ動員された。「学徒出陣」を含めて「学徒動員」と呼ぶ場合もある。

学童疎開……がくどうそかい　戦争末期、都市の国民学校の生徒を空襲の危険から避けるために強制的に農村部へ移動させたこと。東京からは約20万人が疎開した。しかし疎開先の食糧事情は悪く、栄養失調やシラミに悩まされた。親戚などを頼った縁故疎開と学校ぐるみの集団疎開とがある。P.37、P.40、P.155「コラム21 疎開」

機銃掃射……きじゅうそうしゃ　機関銃の銃口を動かし敵をなぎ払うように射撃すること。空母に搭載された戦闘機からの機銃掃射を受けた例が多い。

教育勅語……きょういくちょくご　明治23（1890）年に天皇から国民にむけて発布された「教育ニ関スル勅語」のこと。国民の守るべき道徳、基本精神として忠君愛国の精神を中心に説いたもの。終戦に至るまで、学校教育の支柱として子どもたちに教えられた。

強制疎開……きょうせいそかい　空襲、火災などの被害を少なくするために、建造物や人などを、所有者や本人の意思を認めないで分散させること。P.94「コラム10 強制疎開」

玉音放送……ぎょくおんほうそう　天皇（玉）が自らの声（玉音）で「終戦の詔書」を読み上げた放送のこと。昭和20（1945）年8月15日正午からラジオを通して国民に伝えられた。P.47、P.64「コラム3 玉音放送」

玉砕……ぎょくさい　軍隊が全滅すること。戦時下では消極的な表現を避けるために名誉や忠義を守って潔く死ぬという意味でこの語が使われた。昭和18（1943）年5月にアッツ島で日本軍が全滅して以来、軍部は全滅を玉砕と呼ぶようになった。

金属類回収令・金属供出……きんぞくるいかいしゅうれい・きんぞくきょうしゅつ　戦争の長期化に伴い、政府は軍需物資としての鉄、銅を確保するために金属類回収令を昭和16（1941）年9月に発動した。これにより、家庭を含めの身の回りの金属製品や金具の回収が実施され、神社、寺院、教会なども例外ではなかった。一部では鉄道の線路までが供出された。戦局が厳しくなってくると鍋や釜までがその対象となった。P.34、P.157「コラム22 金属供出（金属類回収令）」

勤労動員……きんろうどういん　戦地に働き手となる男子が送られたため、労働力が不足した農村や工場に14歳以上の男女が勤労奉仕する義務が昭和16（1941）年に法制化された。強制的な無償労働で、隣組や学校などを通して実施された。P.37

空襲警報……くうしゅうけいほう　敵機の来襲が確実となったときに鳴らすサイレン。戦争末期、爆撃が激しくなると、空襲の開始と警報が同時のことも多かった。P.131「コラム18 空襲警報」

軍国主義……ぐんこくしゅぎ　戦争の勝利や軍事力・軍隊の強化が最重要とされ、政治や経済はもちろん、教育や文化、生活様式、思想までもが軍事化されている体制。

（軍事）教練……（ぐんじ）きょうれん　大正14（1925）年から、中学校以上の学校の授業として陸軍の現役将校によって実施された軍隊の基礎的な訓練。昭和20（1945）年に廃止された。P.22

軍需工場……ぐんじゅこうじょう　戦争に必要な武器、爆薬、航空機、車両などを製造・加工する工場。

軍属……ぐんぞく　正規軍人ではないが、軍人に準じて戦争遂行のためのさまざまな任務にあたった人の総称。

軍令部……ぐんれいぶ　旧日本海軍で国防計画や、作戦など海軍の軍事的な活動を司った最高機関。これに対して予算や人事など政治的な活動を司るのが海軍省である。

警戒警報……けいかいけいほう　敵機の来襲は確実であるがどこを攻撃するかはまだわからないとき、進行方向の地域で鳴らしたサイレン。確実性が高まると空襲警報に切り替わる。

警防団……けいぼうだん　戦時中、地域の消防や防空などのために組織された団体。従来の防護団と消防団が警察署単位に統合された。

憲兵……けんぺい　明治時代に創設された、陸軍大臣が管轄する軍直属の軍事警察組織。次第に活動の幅を広げ、反戦思想家やスパイ容疑者の取り締まりなど。

国民学校……こくみんがっこう　昭和16（1941）年公布の国民学校令により尋常小学校を改称した初等教育機関。皇国民の基礎的訓練が目的と位置づけられた。昭和22（1947）年まで存続。国民学校は1～6年生、その上に高等小学校に相当する、2年間の高等科もあった。P.39

国民服……こくみんふく　国民生活の合理化・簡素化のために常に着るべきものとして、国民服令によって昭和15（1940）年に制定された服のこと。軍服と同系色でなかなか普及せず、昭和19（1944）年ごろになって広く男子に着用されるようになった。P.35、P.125「コラム17 戦時中の衣服」

国家総動員法……こっかそうどういんほう　戦時（事変）に際して「人的及び物的資源」を総動員して使うことができるとを定めた法律。昭和13（1938）年4月1日公布、5月5日施行。P.32

コーリャン　中国産の穀物。乾燥に強く荒れ地でも良く成長する。戦時中は米の代用品として配給されることがあった。現在はモロコシ、ソルガムなどと呼ばれる。

五・一五事件、二・二六事件……ご・いちご じけん、に・にろくじけん　第一次世界大戦後の経済恐慌などの社会不安の元凶を政治家や実業家であるとする青年将校らが首相官邸、警視庁などを襲撃した反乱事件。昭和7（1932）年5月15日と、昭和11（1936）年2月26日におこった。P.20

行軍……こうぐん　軍隊が隊列を組んで遠距離を移動、行進すること。

高射砲……こうしゃほう　航空機を射撃するための火砲。海軍では「高角砲」と呼んだ。高台や広場に設置されたが、高高度を飛ぶB29に対しては弾が届かなかった。

国賊……こくぞく　戦争や国家に対して批判した人を非難する語。非国民とも言った。こういった言葉が、戦争に対する異論を許さず、同調する空気を作り出した。

コーリャン　中国産の穀物。乾燥に強く荒れ地でも良く成長する。戦時中は米の代用品として配給されることがあった。現在はモロコシ、ソルガムなどと呼ばれる。

日中戦争……にっちゅうせんそう　昭和12（1937）年に始まった、日本と中華民国との戦争。

ロケット　ノズルから噴射する燃焼ガスの反動で飛ぶ乗り物。

ロボット　人間の代わりに危険な作業などをする機械。

ワクチン　病気を引き起こす細菌やウイルスなどの毒性を弱めたり、なくしたりして、体内に入れることで、その病気にかかりにくくする薬。

湾岸戦争……わんがんせんそう　1990年、イラクがクウェートに侵攻したことをきっかけに、アメリカ軍を中心とする多国籍軍がイラクと戦った戦争。

わ

ワープ　SF作品などで、宇宙船などが一瞬で遠くへ移動すること。

ワクチン　病気を引き起こす細菌やウイルスなどの毒性を弱めたり、なくしたりして、体内に入れることで、その病気にかかりにくくする薬。

ワシントン条約……じょうやく　絶滅のおそれがある野生動植物の国際取引を規制する条約。1973年に採択され、1975年に発効した。

ワルシャワ条約機構……じょうやくきこう　1955年、ソビエト連邦を中心に東ヨーロッパの8か国が結成した軍事同盟。1991年に解体した。

湾岸戦争……わんがんせんそう　1990年、イラクがクウェートに侵攻したことをきっかけに、アメリカ軍を中心とする多国籍軍がイラクと戦った戦争。

ヴィシー　第二次世界大戦中、連合国の軍用車両としてアメリカへ運用された四輪駆動車。一部が日本の陸軍にも供与された。

ヴィシー政府……せいふ　第二次世界大戦中、ドイツ軍に降伏したフランスに成立した政府。ドイツに協力的だったことで知られる。

ウィルス　生物に感染して増殖し、病気を引き起こす小さな構造体。

ウクライナ　ロシアの西隣にある国。2022年にロシアから軍事侵攻を受けた。

ウラン　放射線を出す性質をもつ金属。原子爆弾や原子力発電の燃料として使われる。

運転士　列車や電車を運転する人。

運転手　自動車を運転する人。

映画　動く映像を連続して映し出すことで、ストーリーなどを表現するもの。

英語　イギリスやアメリカなどで使われている言語。

英国　イギリスのこと。

英国空軍……えいこくくうぐん　イギリスの空軍。

英国陸軍……えいこくりくぐん　イギリスの陸軍。

英国海軍……えいこくかいぐん　イギリスの海軍。

英雄　勇気や知恵があり、人々のために活躍する人。

駅　鉄道や路線バスなどの乗り降りをする場所。

エジプト　アフリカ大陸北東部にある国。

エンジン　燃料を燃やすことで動力を生み出す装置。

王　国を治める男性の君主。

王国　王が治める国。

王様　王国を治める男性の君主。

王女　王の娘。

王妃　王の妻。

王子　王の息子。

王族　王の家族や親戚。

オーストラリア　南半球にある国。

オーストリア　ヨーロッパにある国。

オーストリア＝ハンガリー帝国……ていこく　1867年から1918年まで存在した、オーストリアとハンガリーの二重帝国。

オーストリア大公……たいこう　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝の息子。

オーストリア大公妃……たいこうひ　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝の息子の妻。

オーストリア皇帝……こうてい　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世……こうていフランツ・ヨーゼフいっせい　1848年から1916年まで在位したオーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおい　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのあにのむすこ　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおい　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこ　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのはは　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつま　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻の父……こうていフランツ・ヨーゼフいっせいのおいのむすこのつまのははのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちちのつまのちち　オーストリア＝ハンガリー帝国の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の兄の息子。

**オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の甥の息子の妻の母の父の妻

簡易住宅を指す。駐屯兵のための簡易な細長い兵舎を指す場合もある。

B17　アメリカのボーイング社が開発した四発重戦略爆撃機。高高度での優れた性能と強い防御力を持ち、ドイツ本土への爆撃に運用され、敗戦に追い込んだ。BはBomber（爆撃機）の略。

B29　アメリカのボーイング社が開発した大型戦略爆撃機。当時、最も長い距離を航行できる爆撃機で、日本の大都市への焼夷弾による絨毯爆撃や、広島、長崎への原子爆弾投下を実行した。BはBomber（爆撃機）の略。▼P・25

引き揚げ……ひきあげ　日本の敗戦により、外地や海外にいた軍人や民間人が日本に戻ったこと。▼P・50

防空壕……ぼうくうごう　空襲の被害を避けるための穴や地下室。各家庭が庭などを利用してつくり、空襲警報が鳴ると避難した。しかし構造が不十分な場合も多く、避難しても内部で死亡することが少なくなかった。▼P・97「コラム11 防空壕」

捕虜……ほりょ　戦争などで敵に捕らえられた人。ジュネーブ条約（赤十字条約）により、人道的な待遇が定められているが、満州などでソ連軍の捕虜になった日本兵や逮捕された民間人は、シベリアなどの過酷な環境下で強制労働に従事させられた（シベリア抑留）。また日本人による捕虜虐待も戦後戦争犯罪として問題になった。▼P・48、P・74「コラム5 ソ連の参戦」

ま

満州事変……まんしゅうじへん　昭和6（1931）年9月18日、日本軍が南満州鉄道を爆破した柳条湖事件に端を発した日中の軍事衝突。時の若槻内閣は不拡大方針を採ったにもかかわらず、現地の関東軍はそれを無視して満州地方を占領。翌年には「満州国」を建国する。▼P・23

や

山本五十六……やまもといそろく　太平洋戦争開戦時の連合艦隊司令長官。真珠湾攻撃やミッドウェー海戦などを指揮した。昭和18（1943）年ソロモン諸島で戦死。

ら

闇市……やみいち　物資の統制による正規の配給ルートを通さずに流通する違法な物資を売買する市場。敗戦と同時に都市の駅前などで自然発生的に生まれた。東京では上野や新宿、新橋などに大きな闇市があった。▼P・49

罹災証明……りさいしょうめい　空襲で家を焼かれた人たちに発行された証明書。これがあっても日用品の支給は十分にうけられなかった。罹災者の増加により、その救護対策に困った政府は、罹災者の集団疎開を推進した。罹災者が疎開先への切符を買う際にも必要だった。

平和の願いをこめて 2016

―今、語り継ぐ　戦争の体験―

港区戦争・戦災体験集　第3集

平成28（2016）年3月31日　発行

発行　港区総務部人権・男女平等参画担当
〒105-8511　港区芝公園一丁目5番25号
電話　03-3578-2111（代表）

発行番号　27197-6421

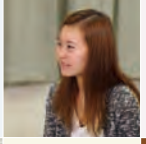
港区平和都市宣言
30周年ロゴマーク

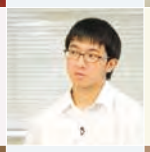
区の木 ハナミズキ　区の花 アジサイ　区の花 バラ

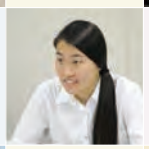
協力（敬称略・五十音順）
アジア歴史資料センター
アド・ミュージアム東京
伊方町（愛媛県）
共同通信社
慶應義塾福澤研究センター
国立公文書館
国立国会図書館
時事通信フォト
しょうけい館
昭和館
誠文堂新光社
知覧特攻平和会館（鹿児島県）
長崎原爆資料館
日本電波塔（東京タワー）
沼津市教育委員会（静岡県）
ピクスタ
広島平和記念資料館
平和祈念展示資料館
別府市（大分県）
港区立港郷土資料館

イラスト
佐々木充彦

監修
都倉武之

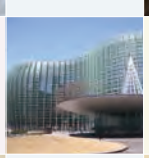
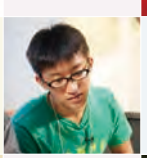
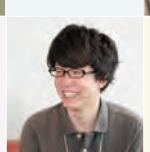
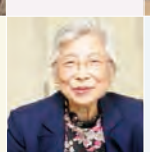
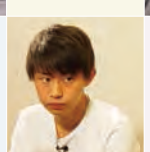






平和の願いをこめて
2016

―今、語り継ぐ　戦争の体験―

港区戦争・戦災体験集　第3集

港区